お茶の時間　心に響く言葉　2

第107号　2012、5、30　(1)

言葉は心

今
努力
する

大上段に構えるつもりも、大見栄きるつもりもないが、日々この心がまえで暮らしている。嫌なことが生じても軽くいなせる。一所懸命を今楽しんでいるから…かなこ

第108号　2012、9、5　(1)

心に響く言葉

ゆきあいの空

「夏と秋と行きかふ空の通ひ路は
かたへ涼しき風や吹くらむ」
（古今集　凡河内躬恒）

夏秋の暑気、涼気の行き合う空を行き合いの空という（玄神花）
かすかに漂う、秋の風の気配を感じとか、朝一番の深呼吸がおいしい。もうススキのゆれる季節だ。朝、赤トンボがいっぱい舞っていた。昔ぢか夏とようやく さよならくく♪

第109号　2012、11、23　(1

こころに響く言葉

縁の下の力持ち
に
なることを厭うな

人のため
よかれと思う心を
常に持てよ

前島密（ひそか）の言葉。まさに越後人だ。雪国の人らしい根性が伝わってくる。

第110号　2013、1、31　(1)

心に響く言葉

巡り
あわせ

昨年、BSシネマで見た半世紀も昔の映画「好人好日」の中で、養女と知って生い立ちを養父に問い詰めた時の言葉だ。
「巡りあわせだよ。私たちと暮らすことになったのも巡りあわせ」それだけのことなんだとさり気なく伝える場面が とても印象的だった。
沖縄に「イチャリバ チョーデー」（行き逢えば兄弟）ということわざがある そうだ。知らなかった人でも、偶然の出会いで親しく言葉を交わせば兄弟も同然である。と。
人生様々。巡りあわせで今がある。巡りあわせで今がある。いろんな巡りあわせを心に留めたい。

111号　2013、4、25　(1)

心に響く言葉

失敗から
学ぶ

何であれ失敗を失敗のままにしていては駄目だと肝に銘じている。

第112号　2013、7、1　(1

遠花火
音もして
何もなかりけり

（河東　碧梧桐（かわひがし へきごとう））

夜空のあちこちで美しい大輪の花火があがる季節がやってきた。
隣の長岡市では八月二日、三日の両日、見応えある大花火大会が催される。一度は見たい、見せたい花火だ。
人々は花火に魅了される。新潟市の関屋浜で打ち上げられていた有志手作りの花火大会が人気が出すぎて今年は中止とか。残念なニュース。海岸線が長く続く新潟市は、海であがる花火が似合うと思っているのになあ。

第113号　2013、8、12　(1

ふるさとの
山に向かって
言うことなし
ふるさとの山は
ありがたきかな

石川啄木

啄木の歌を詠むと、多感だった少女時代を思い出す。

第114号　2013、10、2　(

散歩っていいね

思考力を育てるのにうってつけだと散歩癖が天下一品になるという、英文学者の外山滋比古さんが語る記事を地元新聞で読んだ。
散歩で頭の中に巣くうそうストレスも発散するそうだ。
トトロの歌じゃないけれど「歩こう歩こう。私は元気」そうそう歩こう、歩こう。

第115号　2013、12、5　(1

あした
天気に
なあれ

母の下駄を履き、天高くほうり上げては明日の天気を占って遊んだ幼い日がなつかしい。

十一月二十九日朝、カーテンをあけると外は真っ白。まあだ大丈夫と香気に構えていた人たちも冬タイヤの交換に急かされたことだろう。気まぐれな空模様を眺めていたらピカッと光り雷が轟いた。十二月に入って快晴続き。やっぱり晴れたら嬉しい。